



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

てんかん

脳は、神経細胞が集まってできており、目や耳、舌、手足などからの情報が送られてきて、その情報を脳が処理することで、物を見る、音を聞く、味を感じる、ことができます。また、脳から指令を送ることで、手足を動かす、声を出す、ことができます。さらに、普段意識することはありませんが、心臓を動かす、呼吸をする、なども脳の指令によって制御されています。これらはすべて、神経細胞の興奮によって電気信号が発生し、神経を電気信号が伝わることで情報が伝達されていきます。そのため、脳の神経細胞に電氣的異常興奮が起こると、情報の伝達が正しくおこなわれなくなり、体の動きなどのコントロールができなくなります。てんかんは、この電氣的異常興奮を繰り返しておこす脳の病気です。普段は、神経細胞が興奮しすぎると、それを

抑制する神経が働いて興奮を抑えています。てんかん発作は抑制できないほどの異常興奮がおこったり、興奮を抑制する力が弱くなったたりすることでおこります。

発作の症状は、電氣的異常興奮をおこす場所によって変わり、けいれん（間代発作）や短時間の意識消失（欠神発作）、体が突つ張って硬くなる（硬直発作）、全身や手足が一瞬ピクッとなる（ミオクローニー発作）などが現れますが、てんかん患者さんによって、おきる症状はほぼ同じで、毎回同じ発作がおこります。

てんかんの治療には、てんかん発作をおこりにくくして、てんかん発作の再発を防ぐ作用がある抗てんかん薬が使われます。しかし、抗てんかん薬はてんかんの原因を治しているわけではないので、てんかん発作がおこらないように継続して服用する必要があります。また、発作がおこらないからといって自己判断で薬をやめると、今まで抑えられていた反動でひ

どい発作をおこすことがあるので、薬をやめる場合には徐々に減薬するなど医師と相談しながらおこなってください。

抗てんかん薬には大きく分けてふたつのタイプがあります。ひとつは、神経細胞にナトリウムイオンやカルシウムイオンが入ることで興奮がおこるので、これらのイオンを神経細胞内に入れないようにすることで興奮がおこりにくくするタイプの薬です。もうひとつは、脳内にある「GABA」という興奮をおさえる物質の働きを強めて興奮をおこりにくくするタイプの薬です。発作のタイプによってある程度使用される薬は決まっており、1種類または複数の薬を組み合わせて使用します。いずれの薬も神経の興奮を抑えるため、脳全体の動きも抑える作用があります。そのため、服用する量や種類が増えると眠気やふらつき等の副作用がおこりやすくなります。

（北区）薬局エビュレーション

松本 博志